



第5回

大正浪漫ふあっしょんしょう

4月23日、きらら大正で日本の伝統文化である着物のファッションショーが行われ、町内外から250人以上の来場者が訪れました。地名と大正浪漫をかけ、町おこしの一環で始まったこのイベントは、大正浪漫ふあっしょんしょう実行委員会（山本紀子委員長）が主催で、コンテスト形式から2部構成の芝居風の演出に今年から変更されました。

ロビーでは、大正時代の女学生のように袴を着こなした四万十高校生が駄菓子などを販売し、レトロな着こなしで和装のスタッフが来場者を迎えました。

第1部はヴァイオリンの演奏から「嫁見よ、婿見よ」と謡（うた）役が声をかけながら結婚式の行列で幕を開けました。情熱大陸のテーマに合わせたランウェイを歩くモデルは、照れながら歩く人、ポーズを決めている人もいて、観客からたくさんの声援と拍手が贈られました。

20分のコーヒータイムの後、第2部は三味線の音色から始まり、可愛らしい子どものモデルも大人に手を引かれ登場しました。フィナーレを飾る恋ダンスでは、出演者全員が舞台上に上がり花嫁・花婿を中央に大盛況のうちに幕を下ろしました。



こいのぼりの川渡し

全国各地で行われているこいのぼりの川渡し。その発祥の地と言われる十川地区の“こいのぼりの川渡し”が、今年は4月16日から約1ヵ月間行われました。

この川渡しは、昭和49年に地元の十川体育会が、各家庭であげられなくなったこいのぼりを四万十川に渡すことを目的に始めたもので、現在では、全国各地から送られてくる約500匹のこいのぼりが四万十川を悠々と泳ぐ姿を見るため、たくさんの観光客が訪れています。

4月16日の設置作業には、例年参加している十川スポーツ少年団の子どもたちに加え、高知大学のボランティア組織「えんむすび隊」の大学生12名も加わり、こいのぼりの色分け作業や、対岸の展望所でこいのぼりを吊るす作業などを手伝いました。

十川体育会のメンバーは、この川渡しに参加した子どもや若者たち、そして見に来られた皆さんが、将来、新しい家族や友人を連れて、この地に訪れていただくことを願い、これからも四万十川にこいのぼりを渡し続けます。



志和地区 ガンセキラン 岩石蘭の里づくり

4月13日、志和地区住民で結成された志和活性化協議会の有志で岩石蘭の育成・移植活動を行いました。

志和の宝物である岩石蘭は5月~6月頃に黄色い花が咲き、絶滅危惧種に指定される希少な植物です。

平成25年度から「岩石蘭の里づくり」をテーマに育成・移植活動を行っています。今後も岩石蘭の栽培に力をいれ、志和地区での移植、町内外への販売活動を通して、岩石蘭の魅力を発信していきたいと思ひます。

